

受賞者の皆様のご紹介

1. 産業技術部門 2 席

産業技術賞 株式会社 北海道ゴム工業所 様 (由仁町)

寒冷地で求められる断熱効果と耐久性に優れたゴムマットの製品化

2019年2月、寒冷地で屋外作業を行う人や暖房のない場所で長時間働く人の疲労軽減が図られるゴムマットの開発に着手した。特に、屋外使用を想定した製品はなく、「寒冷地で求められる断熱効果と耐久性」に優れた商品を目指し「ばぶラバ」を製品化。特長は、適度な反発性、断熱性能、氷点下環境での柔軟性及び耐候性を備え、「水を通さず氷点下でも柔らかい」性能により、高所作業車バケットに乗り込むまでの動線での転倒・落下防止の滑り止めとしての用途も生まれた。

創業以来、一貫してゴム製品の製造・加工に取り組んでおり、企業努力を積み重ね、特徴ある製品を開発して道内電話工事会社等へ納入しており、地域経済や産業技術の発展に取り組んでいる。

産業技術奨励賞 谷田製菓株式会社 様 (栗山町)

地元の特産品「由栗いも」を使用した“きびだんご”の商品化

栗山町と由仁町の農家「そらち南さつまいもクラブ」で生産するブランドさつまいも「由栗いも」を使用したきびだんごを開発・製品化してほしいというオファーを受け、商品化によって地域の農業・商業のPRと活性化に貢献したいとの思いから開発に踏み切る。

創業以来変わらないきびだんごの伝統の作り方を守りつつ、「由栗いも」ペーストを（当社のきびだんごの原料となる）もち米、生餡、麦芽水飴、砂糖などと一緒に練りこみ、きびだんごの生地を仕上げる。「由栗いも」本来の甘味や食感を最大限に生かすために原材料との配合比率や練り込みの時間を変える等、幾度となく試作を繰り返し、完成まで4ヶ月を要した。試作品も多くの方に試食していただきアンケートに基づいて完成させた。食感がキャラメルのような口当たりであることから「由栗いも 畑のキャラメル」というネーミングで発売。

新商品の販売により、地元をPRでき、また、異業種との融合による商品開発により、生産者、製造者、販売者いずれも発展し、地域おこしに貢献している。

2. 文化部門 3 席

文化奨励賞 短歌 森の会 様 (美唄市)

1300年生き続ける歌を愛し、次の世代に短歌を継承

平成2年11月、日本の文化である短歌を愛し、次の世代に継承するため、代表者村山朝子様は夫と発足させた。活動ピークの平成10年頃には会員70名程度で運営され、当時は新たに学童(40名)への指導(「森の若葉」と称される)も開始する等、活動は活発だった。

その後、夫が亡くなり一時は会報の発行も中断したが、継続してほしいという声があり活動を再開し会報も最終的に222号にまで到達した。学童への指導も継続し、教え子たちの作品は多くの短歌の会で受賞されている。現在は、美唄文化連盟に加盟し空知管内の様々なエリアでの活動、月形刑務所などで短歌づくりの指導を行っている。33年間に渡る活動および地域への貢献は大きく、さらには3名の生徒が「森の若葉」として継承することが決定した。

ここに、「森の若葉」の入選作品(令和元年 第13回全日本学生・ジュニア短歌大会奨励賞)をご紹介します。“十連休弘前城で花見した空が見えないぐらいにさいた”(小学4年生 村上采佳さんの作)

地域文化貢献賞 泉流恵千翔会 様 (岩見沢市)

日本舞踊の継承と普及

昭和59年1月、会主泉恵千翔の地元石狩市において舞踊愛好者数名で活動を開始した。岩見沢文化連盟に平成25年より加盟して活動中である。

日本舞踊を通じて、地域の方々に笑顔届けたいという思いから、市民文化祭、町内会の敬老会、カラオケ大会での舞踊参加等、活動に取組み好評を博している。また、文化連盟60周年には記念の祝舞を披露するなどし、日本舞踊の美しさ、楽しさを伝える活動で地域文化の振興に大きく貢献している。

地域文化貢献賞 由仁手打ちそばの会 様 (由仁町)

そば文化の継承と普及

平成8年9月、おいしいそばを打ち、楽しく地域にそば文化を広めることを目的に発足した。

活動内容は、月2回の定例会の他に老人ホームで食事会等の開催である。また、平成15年から同28年まで、由仁駅前地域応援隊として年2回、平成15年から令和2年までは「由仁町福祉のつどい」で出店する等の活動を通して町民から好評を得ている。令和3年からは食の文化推進サークルとして文化連盟に加入し、町民文化祭でそば打ちの実演・体験会を開催し、地域住民とふれあい、文化振興と地域の活性化に貢献している。

3. 地域振興部門 5席

ふるさとづくり大賞 一般社団法人 清水沢プロジェクト 様 (夕張市)

ふるさとの歴史と文化の継承に取り組み地域に貢献

平成25年5月、「清水沢エコミュージアム構想」に基づき、静かな地域を守ることを第一義に、まちづくりの糧となる歴史や文化への誇りを継承し、将来の市民に引継ぐことを目標として発足。夕張市清水沢地区を中心とする空知旧産炭地域や関連地域において、地域の象徴であ

る炭鉱遺産や地域資源を保存・活用することを通じ、地域内外の人々が、楽しく誇りある健やかな地域づくりの推進に寄与している。

具体的な取り組み活動は、1. 未指定文化財（旧北炭清水沢火力発電所、清水沢ズリ山、旧北炭清水沢炭鉱事務所、市営宮前町浴場など）の炭鉱遺産の保存・活用等、2. 「清水沢コミュニティゲート」（滞在可能な交流拠点・空知でいち早く「アーティスト・イン・レジデンス」として芸術家を受け入れている）の運営、3. 「みんなで作る夕張の記憶ミュージアム」（デジタル）、「夕張の記憶ミュージアムルーム」（リアル）の運営、4. 「清水沢エコミュージアム」の推進と「清水沢まちあるき」の実施等、多岐に亘っている。

ふるさとづくり貢献賞 国道みまもりたい岩見沢 様 （岩見沢市）

国道沿いの清掃や花壇造成などによる地域貢献

平成 29 年 5 月、国道の上幌向・幌向地区では植樹帯に花を植えており、一方岩見沢の中心部では活動自体がなかったため、国道 12 号の美化を目的に発足した。国道 12 号の岩見沢市大和 1 条 9 丁目から岡山町までの歩道清掃・除草及び街路樹柵の草刈り、花壇造成を通じて町内美化に対する住民の関心を高めると共に、地域コミュニティの形成を図り、明るく住みよいまちづくりに寄与。

主な事業活動は、1. 国道歩道の清掃（延べ 6,643 m²）を年 2 回春と秋に実施（室蘭線横の休憩所は令和 5 年より年 3 回）、2. 花植えは 4 カ所（延べ 221m）で実施、3. 草刈り（延べ 1,284 m²）は年 3～4 回外実施して、地域貢献している。

ふるさとづくり貢献賞 旧幌向川環境保存会 様 （岩見沢市）

旧幌向川の環境改善への取り組みによる地域貢献

平成 26 年 5 月、旧幌向川河川敷の地域住民が接する部分は「粗大ごみ捨て場」と化し、環境が悪化していたため、環境改善を図ることを目的に設立。維持管理のため植樹等も実施していたが取り止め、令和 5 年、活動の主体を環境保存へシフトし、「桜作戦 21」から「旧幌向川環境保存会」に名称を変更。幌向川右岸の敷地内道路を含めた樹木生育範囲と幌向第 24 町内会に面する部分の環境美化及び「桜・栗等の樹木」の管理と環境保存を行い、地域コミュニティの形成を図り、明るく住みよい生活環境の保存に寄与している。主な事業活動は、1. 樹木等の維持管理主体に、根本網掛け・害虫防止の薬剤散布・倒壊防止のため支柱の設置等を実地（適宜）、2. 草刈り（3,200 m²）の実施（年 4 回）、3. 河川敷の投棄防止の監視、清掃の実施。（適宜）である。

ふるさとづくり大賞特別賞 永山 竜樹 様 （美唄市出身）

故郷へ勇気と感動を。柔道オリンピックメダリスト

平成 8 年（1996）4 月、美唄市峰延町出身。4 歳のときに美唄市少年柔道会で始め、小学校 2 年生から岩見沢柔道少年団で稽古を積む。

峰延小学校卒業後、中学は学校法人愛知真和学園大成中学校へ進学、高校は学校法人愛知真

和学園大成高等学校へ進学し、同校を卒業後東海大学に進学した。

令和5年(2023)12月グランドスラム・東京での優勝によりパリオリンピック代表に内定。美唄にとっては大変に明るく夢のあるニュースとなる。令和6年(2024)1月には記念講演会及び柔道教室を開催。6月にはオリンピックへの応援壮行会に出席し、オリンピックへの抱負を語り、柔道教室では子どもたちを指導。

オリンピックの試合当日7月27日には、美唄市でパブリックビューイングが開催され、美唄市民一丸となって応援した。60kg級で敗者復活から銅メダルを獲得し、混合団体戦でも銀メダルを獲得する。

何よりも子どもたちに、「夢は叶う」、「勇気を持つ」、そして「あきらめなければ道は開ける」ことを身を持って示すことができた。

永山選手の活躍で美唄は盛り上がり、美唄が全国にPRされることとなった。永山選手は郷土の誇りである。

ふるさとづくり大賞特別賞 五十嵐(旧姓、東野)有紗様 (岩見沢市出身)

バドミントンで岩見沢から世界へ オリンピック2大会連続メダル獲得

五十嵐(旧姓、東野)有紗。平成8年(1996)8月1日生まれ。岩見沢市出身。市立美園小学校1年生のときにバドミントンを始める。同校5年時にU13ナショナルチームに選出される。卒業後は、母親と福島に転居し、スポーツに力を注いでいる福島市立富岡第一中学校、福島県立富岡高等学校に進学。中学生のとき、1学年後輩の渡辺雄大選手とペアを組み、混合ダブルス「わたがしペア」が誕生した。

バドミントンの世界選手権や全英オープンでの活躍、そしてオリンピック2大会連続メダル獲得と世界でトップに立ち続ける姿は、地元岩見沢市民に限らずオール北海道民に大きな勇気と感動を与えている。試合中にひたすら羽根(シャトル)を打ち込む彼女の姿に多くの人が心を打たれ、メダル獲得決定の瞬間には涙した。

パリオリンピック後に渡辺選手とのペアは解消し、主戦場を女子ダブルスに移し、世界のトップの座を目指している。五十嵐選手の活躍は岩見沢の名を大いに有名にした。スポーツのトップ選手が国内外での大会で活躍していること自体が地元ふるさとの活性化につながっている。